

第10回
千葉県建築文化賞
表彰作品集

2003年

主催：千葉県 共催：(社)千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

第10回千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞はすぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設いたしました。

本年は79点に及ぶ多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞5点及び建築文化奨励賞4点を決定いたしました。

受賞作品は、軽く浮いた大屋根が施設全体を覆い里山の景観と調和する交流施設、「通って、泊まれて、住む」ことができるもう一つのわが家となる高齢者介護施設、高層住宅群の中にあつて木の素材を活かし柔らかさを感じられるコミュニティー施設、地元の木材を使い明治初期の母屋、長屋門等を復元し自然景観と調和した民家など、いずれも2003年の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

受賞された皆様の情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

県としましても、引き続き600万県民の一人ひとりが快適で充実した生活を送ることができる環境の整備に努め、個性豊かな質の高い文化が創造できる千葉県を、県民の皆様と一緒につくっていきたくと思っています。

結びに、受賞された皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員や、共催団体など、関係の皆様のお協力に深く感謝申し上げます。

平成16年 3月

目次	千葉県建築文化賞について … 1	選考経過と総評 … 2
	栄町総合交流拠点 ドラムの里 … 3	本埜ファミリア館 … 4
	旧 水田家住宅 … 5	小規模高齢者複合施設 じゅらく … 6
	高齢者福祉施設 杜の家 … 7	市川の家 … 8
		京成ホテル・ミラマーレ … 8
	鎌ヶ谷市東部学習センター … 9	応募〔推薦〕建築物一覧 … 10
	君津市立中央図書館・君津市地域情報センター … 9	建築文化賞選考委員会 … 10

応募79点から9点入賞(選考経過と総評)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

(選考経過)

第10回千葉県建築文化賞は平成15年7月の委員会で募集要領を定め、8月初旬から9月末まで応募を受け付け、総数79点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)きびしい社会経済情勢がつづく中、前回は8点上回る作品をお寄せいただいた関係者の熱意に深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門6点、高齢者・障害者部門4点、環境部門3点を選んだ。次いで11月下旬と12月上旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は平成16年1月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞5点、建築文化奨励賞4点を表彰候補

作品として決定した。

なお、千葉県建築文化賞選考委員会は10頁の名簿にある8名の委員によって構成されている。そのうち6名の学識経験委員は、建築、都市計画、工業デザイン、福祉分野の専門家であり、大学教員の職にある者を含めて全員が何らかのかたちで設計や計画の仕事に携わっている。このため、委員と関わりのある建築物が応募・推薦される場合がある。これに対し、選考委員会では選考の公明性を保つために次のような対応をとっている。まず、委員は関係のある建築物については意見を述べず、票を投じない。そして、委員と関係のある建築物が投票上位を占めた場合は、そのことを再確認したうえで表彰候補作品を決定する。今回の選考もこの手順を踏んで行われた。

(3部門の対象)	(選考の過程)	応募点数	(1選考) 現地調査	(受賞作品選定)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		51	6	3	2
高齢者・障害者等に配慮した建築物		14	4	2	1
環境に配慮した建築物		14	3	—	1
(合計)		79	13	5	4

(総 評)

景観に配慮した建築物

応募51点は、用途、規模、立地など幅広いが、いずれも景観形成への注意深い配慮を感じさせるものであった。

「栄町総合交流拠点 ドラムの里」は、全体を覆う軽やかな大屋根に特徴があり、房総風土記の丘の松林に溶け込む透過性の高い空間処理が共感を呼んだ。「本埜ファミリア館」は、ニュータウンに建つコミュニティ施設であり、木造黒壁の美しいプロポーションが周囲の景観をひきしめている。「旧 水田家住宅」は、明治初期の酪農家の母屋と長屋門を復元再生したものであり、新設された管理棟とともに、周囲の自然景観とみごとな調和を醸している。また、この建築物は建築文

化の継承という点でも貴重である。この結果、3点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「市川の家」は閉鎖性が強すぎる気味があるが、シャープで質の高いデザインを実現しており、「京成ホテル・ミラマーレ」は、地盤沈下のつづく中心市街地に新しいランドマークを生み出した点が評価された。

高齢者・障害者等に配慮した建築物

この部門への応募は14点と、前回は4点上回った。数は多くないが、今回も高齢者・障害者への配慮と建築的な質の高さを両立させている作品が見られた。

「じゆらく」は、デイサービスを併設した小規模なグループホームであり、明るく温かい“住まい”となり得ている点が高く評価された。「高齢者福祉施設 杜の家」はユニットケアを採用し、ユニットの中心

にキッチン付食堂を配した構成をとっており、中庭から流れ込む穏やかな光の中でくつろぐお年寄りの姿が印象的であった。この結果、2点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「鎌ヶ谷市東部学習センター」は、細長い敷地に合わせて2つの中庭を設け、誰にでも利用しやすいゆりのある施設を実現した点が評価された。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は前回と同じ14点であった。高齢者・障害者の部と同様、環境への配慮が普及し、特別ではなくなってきたことを感じたが、残念ながら今回は建築文化賞の該当なしとした。

奨励賞の「君津市立中央図書館・地域情報センター」は、大空間の吹抜開架室が快適で利用しやすく、省エネ上も効果的な点が評価された。

選 考 の 基 準

- 千葉県内において、平成10年4月1日から平成15年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰趣旨にそっているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周囲の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②安全性・快適性・利便性に優れ、高齢者や障害者等がいそいそと豊かな生活が送れるように十分な配慮がなされ、社会活動への参加が容易に出来るような環境整備がなされているもの。
 - ③エネルギーの省力化や資源の高度な有効利用を図ったり、地域生態環境と親和させるために、自然を取り入れた建築の工夫がなされるなど、人と環境に対して安全安心で健康快適な室内環境の性能について配慮がなされているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

建築文化賞

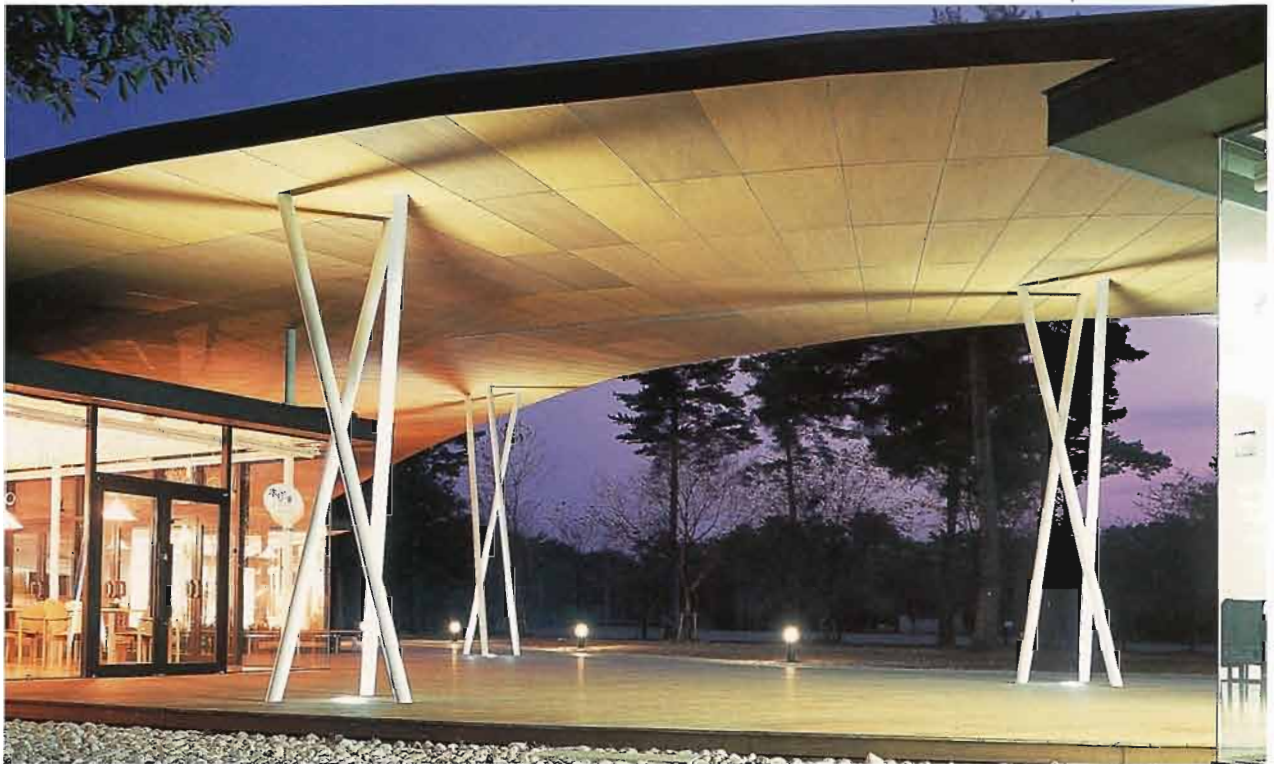
景観に配慮した建築物

建築主：栄 町
設計：株式会社 環都市・建築計画事務所
施工：共立工業株式会社

里山に浮かぶ大屋根

栄町総合交流拠点 ドラムの里

所在地：印旛郡栄町龍角寺1039-1



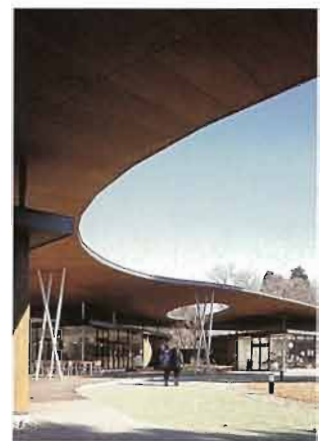
夜景（撮影 齋部 功）

この施設の評価は周辺環境に溶け込んだ単なる一つの建築としての秀逸さにとどまらない。地域のまちおこし・まちづくり
に燃える人々が事業プログラムの構築に深く関わり、設計者がそのシナリオや人柄や場所性を丁寧に読み取った結果生まれた、この一連の営みそのものが注目されるべきである。建築的には桜林や雑木林のなかにブーメランのような薄いつまみ印象的な屋根を掛け、その下に必要ないくつかの透明なボックスを配した極めて単純明快な構成である。その結果、この一帯を訪れた人々は建物によって視線を断ち切られることなく、台地の上の雑木林の木漏れ日を浴びながら、地域の出会いの場に心地よく身を委ねることができる。

さらに特筆すべきは、プロセスに参加した人々が施設の運営にも深く関わり、JAによる地域の農産品の生産・売買や、地域婦人会による郷土料理レストランの運営を中心とした活動の拠点として、実に生き活きと使われていることである。隣接する「房総のむら」や「房総風土記の丘」と連携した、この地域の活動文化拠点ともいべき一連の施設構成の質は高い。ただし、この建築の印象を決定づける構造的にチャレンジした屋根周りに関しては、その実現に要したコスト配分や、屋根形状が原因となる今後のメンテナンス（特に軒裏）に多少疑

問が残る。しかしなお、かつての里山のようなやさしくつかしい環境の中で、建築が勝ちすぎることなく、かつ巧みにデザインされたたまたま、そうした活動の舞台としてふさわしい、そんな思いを強く抱かせる作品である。

（岩村和夫）



大屋根とレストラン棟・ショップ棟



木もれ日のレストラン棟

建築主：本 埜 村
設 計：株式会社 榎本建築設計事務所
施 工：古谷建設株式会社

まちの大きなリビングルーム

所在地：印旛郡本埜村滝野3-4

本埜ファミリア館



正面全景

この建築は、都市基盤整備公団が近年開発してきた千葉ニュータウンの滝野地区にある。時代の激しい変化に強く影響を受けながらも開発が進められてきたこの一帯だが、今や大きな空を持つびやかなまちのスケール感が日本的ではない、そんな台地上に展開する新しいまちである。その一画の角地が敷地である。矩形が連続する端正なプロポーションが際立ち、木部と黒い角波の外壁のコントラストや門型庇フレームの陰影が印象的な、多世代の利用を想定した図書館および多目的な公共施設である。

この建築の最大の特徴は集成材によるラーメン構造に加えて室内の仕上げ材に木材を多用したことだ。内部は複数のライトコートや随所に設けられたハイサイドライトの構成によって大きな空からの日光利用が可能となり、機能毎の領域性を確保しながら隅々まで明るい。そして互いに連続する内部空間を介してお互いの営みを互いに感じ合いながら一時を過ごすことができる、まさに新旧の住民の交流拠点である。

大断面集成材がもたらす豪快な構成が必ずしも高齢者や子ども達のスケールになじまないという異論もあるだろう。目障りな過剰な照明器具も気にはなる。その分、ここに生み出され



図書室

た今後の空間の使われ方が問われることになる。そこに設計者がどのように関わってゆけるのかは定かではないが、いずれにしても、今後外構が整備され、樹木等が成長することによって、ヒューマンスケールが失われがちなニュータウンの景観や生活空間のなかで、まちの大きなリビングルームのようなコミュニティセンターとして熟成していくことが予感される秀作である。
(岩村和夫)

建築文化賞

景観に配慮した建築物

建築主：学校法人 城西大学
設計：大田建築設計研究所
施工：株式会社 大林組

復元された農村旧家

旧 水田家住宅

所在地：鴨川市西字西平339-1



姿を見せた石垣が敷地を囲む

訪れた日はすさまじい豪雨で、ゆるい斜面に建つ水田家旧宅の屋敷門の石段下は走り水が音をたててながれていた。

裏口から駆け込み傘をたたんで眼をあげると、ほの暗い土間にはかまどが並び、続く板間の囲炉裏が懐かしい。

伊藤左千夫の小説「野菊の墓」の舞台は松戸近くの矢切村、水田家は鴨川の在だが、いずれも県内に代を重ねた農村の旧家。黒光りする柱の影には民子、奥座敷からは緋着姿の政夫が今にも現れそうな気配だ。

見事に復元された旧宅に見る明治の姿は小説とほぼ同時代だが、建設はさらに百年以上さかのぼると聞いた。戦後の蔵相として活躍した故水田三喜男氏も、政夫と同じく生家であるこの家を離れて中学に進学している。

古民家再生は木組みや意匠を残して現代生活へのリフォーム、この家のような復元は伝統文化保存、明治期にいち早く南総酪農開発にも力を注いだ水田家では、屋敷門棟屋を牛小屋としており、当時の作業具も展示して、歴史を語る登録有形文化財としての配慮も誠実である。

雨脚もおさまり、曲がり坂道を少しくだって緑に囲まれた旧宅を見上げる。草むらにうもれていたという道沿いの石垣、やや斜めに構えた屋敷門、その奥のどっしりした茅葺き屋根の



門の奥に浮かぶ母屋全景



豊かな曲線の茅葺き屋根

母屋が見せる見事な里山風景は、足を延ばして訪れる人々を暖かく迎えてくれるだろう。

(野口瑠璃)

建築主：社会福祉法人 阿育会
 設計：夏目設計事務所
 施工：常総開発工業株式会社佐原支店

安心して暮らせるもう一つのわが家

所在地：佐原市佐原ホ323-2

小規模高齢者複合施設 じゅらく



グループホーム入口



デイサービスの憩いの場となる光庭



グループホーム居室

2020年には300万人にも達すると言われる痴呆性高齢者の急増に備えてグループホームが一気に増えてきた。

本施設は、眼下に筑波山を遠望できる佐原市郊外の緑に包まれた閑静な立地に建つ高齢者施設。

1階にRC造のデイサービスセンター、2階に木造のグループホームを併設した暖かみのある施設である。交通量の激しい国道に面しているため、騒音及び安全対策として、RC造の人工地盤上にグループホームを配置し、随所に設けた屋上庭園は、2階での生活の危険性及び大地から離れた不安感を解消するのに役立っている。

食堂にはゲストルームを兼ねた和室を接続させ、食事づくりに入居者が参加しやすい台所を配置して食堂との一体感をもたせた。一方、人の尊厳を守り自律を促すために、全ての居

室に便所と洗面所を設置して質の向上をはかり、基準面積を大幅に上回る15.9m²という贅沢な居室を提供。入居者は自分たちの使い慣れた家具などを持ち込み、好みのしつらえを競い合いながら、わが家の雰囲気を楽しんでいる光景がとても微笑ましい。

1階のデイサービスセンターは中央部に設けた光庭より自然光や風を十分取り込み、四周のガラススクリーン越しに各室の人の動きが伺える安心感のある平面計画。

事業主と設計者が心一つにして、痴呆といえども、「もうひとつのわが家」を強く求め、入居者と職員とが心落ち着いて一体となれるような建築的環境づくりに向けて、真摯に取り組んでいる姿に深く感銘を覚えた。

(明智克夫)

建築文化賞

高齢者・障害者等に配慮した建築物

建築主：社会福祉法人 豊和会
設計：株式会社 榎本建築設計事務所
施工：佐藤工業株式会社千葉営業所

ユニットケアが実現した家庭的環境

高齢者福祉施設 杜の家

所在地：香取郡栗源町岩部869-60



東南側外観

緑に包まれたクリーム色の建物は、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスの3つの機能を、中庭を囲む2階建てプランに収めている。四周がガラスの中庭は、施設全体を結びつけると同時に、道路側から楔状に入り込む庭と廊下を隔ててつながり、四季折々の自然を建物の中心に導いている。

建物の道路側1階は、縦長のスリットを持つスクリーンでプライバシーを確保し、2階に廊下状のテラスをとっている。正面にあたる北側2階は大きな壁面だが、1階の玄関脇がガラス張りになっており、来訪者に開放的な表情を見せている。

定員50人の特別養護老人ホームは従来型の多床室が主体で、その点や物足りないが、家庭に近いケアを提供したいという建築主の希望を受け、全体を6~7室ごとの3つのユニットに分ける構成をとっている。各ユニットはキッチン付食堂を中心に編成されており、折れ曲がりの多い廊下には談話コーナーや坪庭が配され、長屋の路地を思わせる雰囲気醸成している。中庭に面した明るい食堂でくつろぐお年寄りの姿は、住み慣れた家に住み続けるように暮らして欲しいという建築主と設計者の思いを映しているようである。

施設運営には地域のボランティアが積極的に協力しているという。ハードとソフト両面で、地域に根づいた施設として成長することを期待したい。
(北原理雄)



ユニットごとに分けられた食堂を中庭より望む



玄関ホール前の談話コーナー

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

端正な表情をもつ住宅

市川の家

建築主：溝口徹・溝口澄子
設計：株式会社キジウロウ ヤハギ
施工：日本建設株式会社東京支店
所在地：市川市須和田1-34-8

市川の住宅地の中に建つこの住宅は、縦ルーバーのファサードが美しく、日本的で端正な外観を持つ。整理された表情だが、縦ルーバーは日本の伝統的な格子のモチーフに通じるせいか、周辺との違和感もない。ルーバーの断面が三角形で、外部の視線を上手にコントロールしている。これは特注の形状で、丹精につくられた工芸品のようなものである。内部空間は隣地との間に2層分の壁をたてその上部からの光を巧みに使って構成されている。熟年の夫婦二人の住まいとして成熟した趣味やライフスタイルに適合して、見事に住みこなされている点もこの住宅への評価となった。ただし前述の2層分の壁はもともとあった外壁の位置というを説明を受けたが、隣地への圧迫感には気になるところでもある。そう広くない住宅地であってプライバシーを守りながら、隣地との関係



2階リビング（南側より）

を良好にするという難しさはあるが、高いレベルのデザイン性を有した住宅作品である。

（篠原聡子）



南側全景（夕景）

建築主：京成電鉄株式会社
設計：戸田建設株式会社一級建築士事務所
施工：京成建設株式会社
施工：戸田建設株式会社千葉支店
所在地：千葉市中央区本千葉町15-1

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

街に華ぎを演出する

京成ホテル・ミラマーレ

ホテルは京成線千葉中央駅の東口に続く典型的なステーション複合施設。周辺の映画館、駐車場、商店などを吸収して建築面積3,376m²、地上16階地下2階の大型ビルに変身した。

かつての京成千葉駅は、終着駅として現在の中央公園にあり、当時の市内中心部に直結していたが、千葉市が戦後大型都市に変貌する過程で、その位置を現在地に変え、終着駅名も中央駅とした。

駅の移設からおよそ45年。都市構造やスケールが次第に変化する中で、千葉市の表玄関はJR千葉駅に委ねられ、京成終着駅ビルには、現在の立地条件を生かす新たな都市機能の創出が望まれていた。



新しいランドマークの出現

その一つは地域のランドマークであること。ついで近隣商業空間との融合が設計主旨とされ、実現したモダンデザインの外観は街の表情に華やぎを与え、特に最上階のスカイバンケットと下層部のガラス張り外壁越しに輝く夜間営業の照明は、あたりを包み込む美しい夜景演出を成功させている。

新装の京成ホテルの出現が、官民協力する千葉市の活性化と都市景観形成の推進力となることを期待したい

（野口瑠璃）



明るいガラス張りのチャペル

建築文化奨励賞

高齢者・障害者等に配慮した建築物

明るい楽しいオープン

鎌ヶ谷市 東部学習センター

周辺には田畑や特産の梨畑が点在しているながら、無秩序な宅地化が急速に進み、やや雑然とした地域に建つ学習とコミュニティセンター。条件として良好とはいえない東西に細く長い敷地を、巧みに生かして計画された簡潔で美しい建物である。

施設は大きく3つに分割され、中庭を挟みながら、長い廊下で結ばれている。2層吹き抜けのゆとりのある空間は、単に通路としてではなく、ギャラリーとして住民の作品展示の場、交歓の場にもなり、賑わいを見せるであろう。中庭を通して、どの室にも緑と自然の光、風が十分に取り込めると同時に、ガラス越しに建物全体の生き生きとした気配が感じられる。全体の魅力的な空間構成は、一人で訪れた人も探究心を刺激され、思わず知的活動に参加したくなるような仕掛けとなっている。近隣住民の方



東側ファサード 市民ギャラリー（パサージュ）

建築主：鎌ヶ谷市
設計：株式会社日建設計
施工：東急建設株式会社東関東支店
所在地：鎌ヶ谷市東道野辺4-9-50

たちとの意見交換、利用団体、サークルとのヒアリングを重ねながら計画された成果であろう。

無機質の材料や部分のデザイン、サイン標示等に、障害者への配慮にやや欠けるとの意見もあった。しかし、この施設を拠点に、地域の人々が集い、学び、多様で活発な活動が生まれ、新しい「まちづくり」のエネルギーに育っていくことを期待して、建築の総合的な完成度を評価したい。（夏目 幸子）

9

建築文化奨励賞

環境に配慮した建築物

バザールのような、本と人、人と人との出会いの広場

君津市立中央図書館・君津市地域情報センター

鳥が羽ばたくような躍動的な金属屋根をもち、街中に賑わいを創出するような未来的デザインで、都市再生の起爆剤ともなる図書館が市庁舎に隣接して出現した。

中央部の3層吹き抜けの無柱空間を成人開架室として、その四周に形態の異なる4棟の建物を寄せ合い、それぞれ1階はエントラホール、子ども図書館、閲覧室、資料室の各機能をもたせた。閲覧室には、随所に屋外テラスを設けて内外空間の一体化を計り、気持ちのよい室外読書スペースを提供している。全館が一目見てわかりやすく明解な空間構成を誇っており、インテリアにも木質系を基調とした暖かみのある室内環境が心地よい。

類似施設の実績を誇る設計者は、豊富なデータ分析によ



エントランス外観



開架室吹抜空間

建築主：君津市
設計：株式会社 山手総合計画研究所
施工：清水建設株式会社千葉支店
施工：株式会社 新昭和
所在地：君津市久保2-13-3

って読書意欲を刺激する様々な仕掛けを提案している。

建物北側のプロムナードに面してショーケースを設けて外部に情報発信し、コーナー部にはバス停の待合所を設置するなど、積極的に街との関わりを大切にしている。

難を言えば、建物へのアプローチが分かり難いなど、一工夫欲しかったという意見も聞かれた。省エネルギー及び環境共生にも十分配慮されているが、応募はむしろ景観部門の方が適当ではなかったかとの指摘もあった。（明智克夫）

応募(推薦)建築物一覧(地域・市町村別) (64作品) 【◎表彰の対象となったもの ●現地調査の対象となったもの】

(惜しくも選にもれた建築物にも、それぞれ優れた配慮や特長がありました。)
携わられた方々に敬意を表し、ますますの御活躍を期待しています。

[千葉県内]		[印旛地域]	
汐見丘の小さな家	中央区	◎栄町総合交流拠点 ドラムの里	栄町
◎京成ホテル・ミラマール	中央区	宗教法人勝胤寺檀信徒会館	佐倉市
幕張パークタワー	美浜区	特別養護老人ホームゆたか苑	佐倉市
社会福祉法人鳳雄会ほうゆう学園	花見川区	西平レディースクリニック	佐倉市
介護老人保健施設ケアセンターけやき園	緑区	印西消防署牧の原分署	印西市
千葉トヨタビル	中央区	白石市立清水口保育園	白井市
神田外語大学[SACLA]	美浜区	◎本埜ファミリア館	本埜村
緑区鎌取コミュニティセンター・緑図書館	緑区	栗山の家	四街道市
千葉市立幸町第二中学校	美浜区	木川邸	四街道市
		富里市立図書館	富里市
[千葉地域]		[香取地域]	
習志野教会	習志野市	保科家離れ	佐原市
津田沼の家	習志野市	◎じゅらく	佐原市
養老川板羽目堰資料保管庫・管理棟	市原市	山田町役場	山田町
市原の家	市原市	◎高齢者福祉施設 杜の家	栗原町
[東葛飾地域]		[海匝地域]	
住友大阪セメント(株)新規技術研究所新棟	船橋市	光町立 光中学校	光町
船橋の家	船橋市	[山武地域]	
ライフケア船橋会堂	船橋市	竹内邸	松尾町
◎療養型病床群いけだ病院	船橋市	[長生地域]	
船橋情報ビジネス専門学校3号館	船橋市	杜の家栗生野 回杜庵	茂原市
Y'S Court(ワイズコート)	船橋市	一宮の海の小屋	一宮町
吉橋邸	船橋市	◎一宮の家	一宮町
Y'S garden(ワイズガーデン)	船橋市	特別養護老人ホームまきの木苑	長生村
Y'S mart(ワイズマート)	船橋市	[夷隅地域]	
karinvala(花梨谷)	市川市	商い資料館	大多喜町
千葉地方法務局市川支局	市川市	[安房地域]	
◎市川の家	市川市	丘の上の住宅	館山市
ラ・ドルチェ・ヴィータ	市川市	館山市立神余小学校	館山市
学校法人市川学園市川中学校・市川高等学校	市川市	ハイウェイオアシス富楽里の駅「富楽里とみやま」	富山町
浦安市立高洲小学校	浦安市	◎旧 水田家住宅	鴨川市
学校法人大勝院学園大勝院幼稚園	松戸市	[君津地域]	
児童養護施設 晴香園	松戸市	生物遺伝資源保存施設	木更津市
キュアラビル	柏市	介護老人施設メディケアー君津	君津市
飛白	野田市	◎君津市立中央図書館・君津市地域情報センター	君津市
知的障害者通所授産施設「むつぼし」	我孫子市	医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院	袖ヶ浦市
パークサイド鎌ヶ谷	鎌ヶ谷市		
◎鎌ヶ谷市東部学習センター	鎌ヶ谷市		

千葉県建築文化賞選考委員会

委員長 北原 理雄：千葉大学工学部教授

副委員長 岩村 和夫：武蔵工業大学環境情報学部教授

【敬称略 委員は五十音順】

委員 明智 克夫：(社)千葉県建築士会会長

委員 篠原 聡子：日本女子大学家政学部助教授

委員 夏目 幸子：建築家・千葉県医療技術大学講師

委員 野口 瑠璃：環境デザイナー

委員 梅田 勝：千葉県健康福祉部長

委員 武間 豊夫：千葉県都市部長

受賞作品の位置

建築文化賞受賞作品 所在市町村別の数

千葉市	15
船橋市	3
印西市	3
木更津市	3
市川市	2
浦安市	2
東金市	2
大多喜町	2
千倉町	2
習志野市	1
八千代市	1
市原市	1
松戸市	1
柏市	1
野田市	1
佐倉市	1
八街市	1
白井市	1
栄町	1
本埜村	2
佐原市	2
栗源町	1
大網白里町	1
岬町	1
鴨川市	2
君津市	1
計	54



第10回千葉県建築文化賞

- ① 栄町総合交流拠点 ドラムの里
- ② 本埜ファミリア館
- ③ 旧 水田家住宅
- ④ じゅらく
- ⑤ 高齢者福祉施設 杜の家

第10回千葉県建築文化奨励賞

- ⑥ 市川の家
- ⑦ 京成ホテル・ミラマーレ
- ⑧ 鎌ヶ谷市東部学習センター
- ⑨ 君津市立中央図書館・君津市地域情報センター

★は1～9回の建築文化賞受賞作品

千葉県建築文化賞の実績（応募点数・受賞作品数）一覧

第 回	年	応募総数	建 築 文 化 賞				建築文化 奨励賞
			景観に配慮	高齢者・障害者等に配慮	環境に配慮	計	
1	1994	192	3	3		6	
2	1995	73	3	3		6	
3	1996	83	3	2		5	4
4	1997	87	4	1		5	5
5	1998	106	2	0	2	4	5
6	1999	101	2	2	2	6	3
7	2000	63	3	1	2	6	4
8	2001	88	2	2	2	6	2
9	2002	71	2	1	2	5	4
10	2003	79	3	2		5	4
1～10	計	943	27	17	10	54	31

※1) 「環境に配慮した建築物の部」は第5回に創設した。 ※2) 「建築文化奨励賞」は第3回に創設した。

千葉県建築文化賞は、多くの方々の協力にささえられ、回を重ねてまいりました、その間、県下の広い地域にわたり、54の建築文化賞が受賞されそれぞれの地域に根づいています。千葉県建築文化賞はこれからも続けてまいります。

第11回の作品募集は、平成16年夏に行う予定です、皆様のご応募をお待ちしております。終わりに、関係いただきました皆様に感謝し、改めてお礼申し上げます。

お問い合わせ先

千葉県都市部建築指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

TEL.043(223)3186 FAX.043(225)0913

社団法人 千葉県建築士会

〒260-0854 千葉市中央区長洲2-12-25

TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101